

伊唐小が教育優秀賞を受賞

へき地・小規模校のよさを生かした教育活動を実践している伊唐小学校（春木寛治校長・児童数11人）が、県教育委員会教育長と県へき地・小規模校教育研究連盟会長から贈られるへき地・小規模校教育優秀賞を受賞し、11月13日、春木校長と児童、鴨川一成PTA会長が受賞の報告に町長室を訪れました。

同校は、郷土「伊唐」のよさを「伊唐ミュージカル」として情報発信する活動を通して、郷土に対する誇りと愛情を持った子どもの育成や継続的な読書指導・日記指導・作文指導と年間を通しての各コンクールへの積極的な応募など、自分の思いを生き生きと表現できる子どもの育成に努めています。

↓受賞の報告に町長室を訪れた伊唐小代表者の皆さん



長島の教育

↓鷹巣小で図書巡回指導員が読書クイズを出題



↑田尻小で複式小規模校研究会を開催



学校の学力向上への取り組み

10月31日、文部科学省学力拠点事業の推進校として、川床小学校が国語の研究公開を行いました。川床小学校では、子どもたち一人ひとりが主体的に学習に取り組むことができるように「ガイド学習」（グループの中でガイド役が中心になり、お互いの考えを話し合いながら学習を進めます）を中心にした研究を発表しました。

11月14日には、町の複式小規模校研究会が田尻小学校で行われました。田尻小学校は、算数科の学習を中心にした複式学級の指導の進め方について、これまでの取組を発表しましたが、学校の職員全員によるドリル学習や家庭学習の充実などについても特色あると取組が見られました。

どちらの学校においても、出水地区内や町内の先生方が多数参加し、子どもたちの学力向上のためにどうすればよいか熱心に話し合われました。来年度は、鷹巣小学校も研究公開を行う予定になっています。

このように、町内のすべての学校が子どもたち一人ひとりの学力向上のための取り組みを進めていますので、家庭や地域においても、子どもたちへの声かけや励ましをお願いします。

子どもたちは、読書活動を通して、ことばを学び、表現力を高め、感性を豊かにすることが出来ます。そこで、町内の各学校では、朝の10分間読書や特色ある読書活動を行っています。例えば、平尾小学校では、「コスモス読書旬間」を設定し、読み聞かせやパネルシアターを行ったり、図書室を一般開放したりして地域全体で読書に親しむ取り組みを進めています。

教育委員会学校教育課では、町内のすべての学校に図書巡回指導員を派遣しています。季節や行事に合わせて図書館の設営を行い、子ども

読書で心豊かな子どもの育成を！

私たちの読書活動について支援しています。11月の鷹巣小学校の「読書まつり」では、図書巡回指導員が読み聞かせや読書クイズを行ったり、図書委員会の子どもたちといっしょにパネルシアターを発表したりしました。

平成16年度には、県の「子ども読書活動推進計画」も出され、乳幼児期からの読書活動の充実が求められました。これからも、学校、家庭、地域が手を取り合って町ぐるみの活動を進めてほしいものです。